

## 巻頭言

留学生教育・支援センターが発行する紀要の巻頭言を執筆する時期になりました。毎年ですが、この時期になると、如何なる内容を記述したらよいか、悩んでいる所です。

さて、令和3年度（2021年4月1日～2022年3月31日）は、相変わらず新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、外国人留学生の受入れ及び日本人学生の海外派遣が低迷した一年間でした。その一方で、Zoom等を活用したオンライン授業が抵抗なく普及した1年といっても過言ではないと思われれます。

一方、留学生教育・支援センターに関わる人事で大きな変化がありました。まずは、私事で大変恐縮ですが、冨田彰秀が令和3年4月1日付けで当該センターの教授として再雇用され、センター長をも兼務させて頂いています。加えて、令和3年10月1日付けで郭昱昕先生がテニユアトラック助教として赴任されました。郭昱昕先生におかれましては、当該センターに新しい風を吹かして頂ければ、誠に有り難い限りです。大いに期待しておりますので、益々のご精進を頂ければ有り難い限りです。

また、令和3年度は、第3期中期目標・中期計画の最終年度の年に該当しています。キャンパスの国際化に関わるKPI（Key Performance Indicator）の中で、「外国語（英語）で提供する授業科目数」や「職員のグローバル化対応能力の向上」については、目標値を既に達成しています。

その様な中で、留学生教育・支援センターが先頭となって展開してきた学部横断型特別教育プログラム「長崎グローバル+コース」は、平成27年度（2015年度）に長崎大学で新しく開講された学部横断型特別教育プログラム（副専攻プログラム）であり、「Special Course in Academic Skills（SCAS）」科目と「グローバル・モジュール（GM）」科目から成る特別英語教育プログラムであります。これらの科目は全て英語で授業が行われ、通常の学部第1年次及び学部第2年次で履修する教養教育の英語科目の代わりに、SCAS科目を履修して単位互換を行うカリキュラムとなっています。これらの授業を担当する講師陣は、TESOL（Teaching English to Speakers of Other Languages）<sup>(\*)</sup>をベースとした教授法をマスターした英語教育のプロであり、米国のモンタナ大学から派遣されてきました。言い換えれば、長崎大学のキャンパスにいながらに、英語圏の大学に留学する場合と同じような環境で英語を学ぶことができるメリットがある

といっても過言ではありません。

お陰様で、第3期中期目標・中期計画の期間（平成28年度～令和3年度）中を含み、機能強化経費を頂戴しながらの6年間ではありましたが、受入学生は482名、修了者は178名（受入学生の36.9%）との結果を挙げる事ができました。すなわち、「受講学生の英語力向上」及び「海外志向の醸成」が著しく進んだものと自負しています。第4期中期目標・中期計画の期間中も「長崎グローバル+コース」の継続を強く要望させて頂きましたが、令和4年3月末日をもって学部横断型特別教育プログラム「長崎グローバル+コース」を終了することになりました。継続が認められず、大変残念ではありますが、今後の参考として頂くために、6年間にわたる「長崎グローバル+コース」の活動内容について報告書として取り纏めて、留学生教育・支援センターの名前で発行させて頂きました。

さらに、驚くべきことがウクライナで生起致しました。すなわち、令和4年2月24日、ロシア軍がウクライナに侵攻して攻撃を行うとともに、住民へ危害を及ぼすことになりました。その結果、ウクライナ国内の多くの大学生及び大学院生が高等教育を停止せざるを得なくなりました。長崎大学は、ウクライナ国籍を有するこれらの避難民学生を長崎大学に受入れるべく、一時的な救済措置プログラムを発表致しました。とりわけ、ウクライナから受入れる学部学生20名については、留学生教育・支援センターに所属させて、英語による教養教育科目を履修して頂くことになりました。さらに、日本語教育の履修を希望するウクライナの学生も多く、非常勤講師を確保の上で新たな日本語教育プログラムの立ち上げについても検討している所です。

今後も、ウクライナからの避難民学生の受入れをはじめ、一般交換留学生の受入れ及び日本人学生の海外派遣を積極的に進めていく所存です。ご支援の程、宜しくお願い致します。

長崎大学・学長特別補佐（国際交流担当）、  
留学生教育・支援センター長、教授、  
伊田彰秀

（※）TESOL（Teaching English to Speakers of Other Languages）とは、英語が母国語ではない人々向けの英語教授法のこと。